

【真駒内駅前地区まちづくり指針】

○通過型から人が集まる滞留・交流型の駅前地区へ

○駅前地区の活動と交流の広がりでも南区全体の魅力向上へ

【まちづくり計画(案)再編コンセプト】

① 都市機能の集積による生活利便の向上

② 真駒内独自の魅力の活用・向上

③ 駅前にはさわしい公共空間の充実

④ 交通結節機能の再編

⑤ スマートコミュニティのモデル地区形成

⑥ 駅からの人の誘導(人優先の空間)

⑦ 快適で安心安全な歩行者ネットワークの形成

⑧ にぎわいの軸の形成

⑨ みどりを感ずる街並みの形成

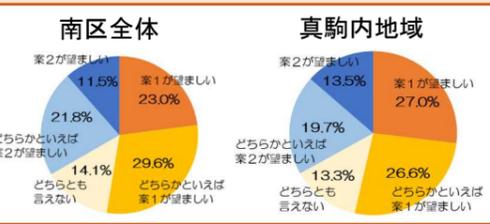
南区・真駒内全域に効果を波及

【駅前地区に求められていること】

青字: 検討委員会、地域協議会、アンケート調査
オープンハウス、サウンディング調査での意見等

《全体傾向》

- 駅と駅前地区を歩行者空間で連続化し平岸通を迂回させる案(案1)を支持する回答が過半以上



《景観・みどり》

- 駅を出た視点での景観づくり
- 品格を感じる駅前空間
- みどり・にぎわい等の景観要素の効果的な演出



《地域活動》

- 交流広場の日常的なにぎわい
- 持続可能なエリアマネジメント(広場の効果的な運用)
- 多くの方が交流広場へ立ち寄る駅や各施設からのアクセス性



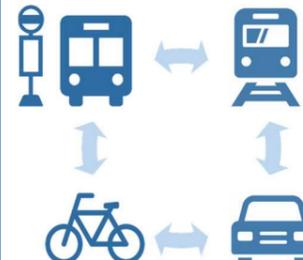
《都市機能集積》

- 商業・医療等の都市機能の集積
- 地域が求める様々な機能の導入
- 民間需要を呼び込む魅力的な立地の創出



《交通結節》

- 乗継利便性の向上
- 快適なバス待ち環境



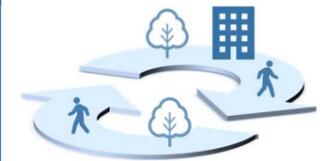
《歩行者ネットワーク》

- 安心・安全(歩行者の安全性)
- 高齢者・子育て世代にやさしい上下移動の少ない移動環境
- 駅前での歩行者空間の確保



《展開・波及》

- にぎわいの連続化(駅⇔広場⇔駅前通り)
- 駅前地区全体の回遊性の確保
- 周辺地域(地上レベル)も見据えた回遊性



駅前の歩行者空間を確保した「人・公共交通主体」のまちづくり

駅前から駅前通(にぎわいの軸)をみどり・にぎわい空間で一体化

駅・交通広場・民間施設(商業等)の各施設と交流広場を地上レベルで一体化

駅・交通広場・民間施設(商業等)間を快適な歩行者空間で直結

駅と駅前街区の間において歩行者と自動車の交錯を上下移動を伴わず解消

駅前通から周辺地域への回遊を促すため地上レベルでの動線を構築

【基本的な方向性】

- 誰もが安全・快適に移動し、にぎわいや交流が生まれ、南区の拠点としての利便性を享受できる「人・公共交通主体」のまちづくりを実現するため、駅前に歩行者空間を確保し、平岸通を迂回化することにより、**駅、交流・交通広場、民間施設(商業)を地上レベルでつなぎ、切れ目ない人の動線を構築**

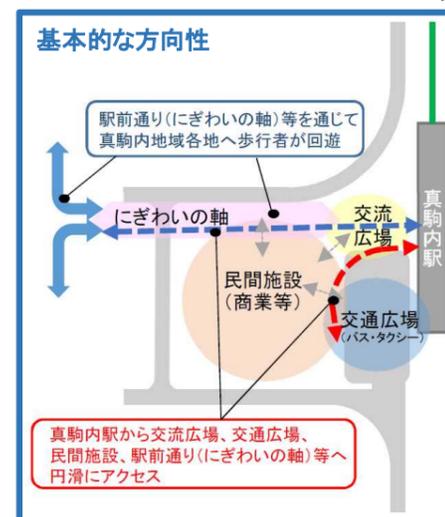
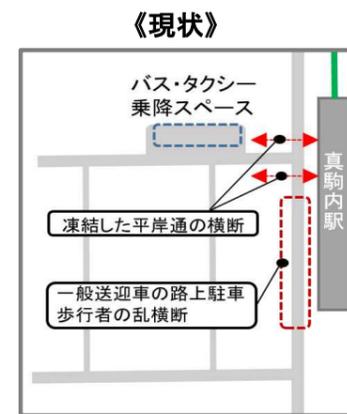
- あわせて、交差点・道路線形の改良や一般車送迎スペースの設置など、**自動車交通の円滑性・安全性確保に向けた取組の実施検討**

【自動車交通の円滑性・安全性の確保に向けた取組の実施検討】

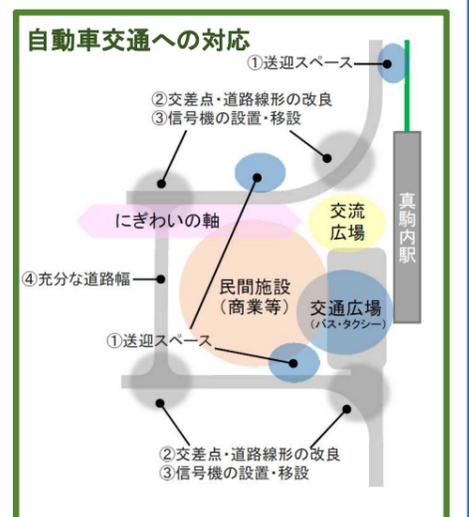
- 「送迎スペース」・・・一般車用の送迎スペースをA街区の北側と南側のそれぞれに設置(A街区の民間施設駐車場との連携も視野)
- 「交差点・道路線形の改良」・・・隅切りの整備等による見通しの確保、右左折レーンの設置、スムーズに走行できる道路形状
- 「信号機の設置・移設」・・・信号制御による安全性の確保
- 「十分な道路幅」・・・冬季の堆雪、見通しも考慮したゆとりある道路幅確保

【期待される効果】

- 「各交通施設間の円滑な乗継」
- 「平岸通の道路横断や乱横断発生等の交通課題の解消」
- 「品格やにぎわいが感じられる駅前空間の形成」
- 「地域利便に供する都市機能集積の実現」
- 「真駒内各地域への回遊性創出」
- 「交流広場の活用の可能性の拡大」



《計画》



【土地利用計画案に対する懸念の声】

《案1(駅と駅前街区を連続化する案)に対して》

- 渋滞発生が心配
- 2階レベル等で接続すれば良い
- 南側一般送迎車が利用しづらい
- 通過交通の円滑性の低減
- 右左折による事故増加の心配

交通対策により懸念解消へ

《案2(現状の道路網を維持する案)に対して》

- 道路横断(平岸通)の危険が残る
- 乱横断の危険が残る
- まちづくり効果が期待しにくい

平岸通迂回化により懸念解消へ

《自動車交通の現況・今後の情勢》

- 駅前の平岸通の交通量は近年減少傾向、半数近くが駅前で右左折
- 人口減少、高齢化の進展、若者の自動車離れ等により、自家用車利用者が減少の予測
- 自動車中心から人中心のストリートづくり(ウォークブル)

《交通解析の実施》

- 迂回化や新たな開発を考慮した交通解析を行い、「混雑度」「交差点需要率」「動的解析」から、渋滞の可能性は低いことを確認
- 《混雑度》道路の混雑度合を示す指標
- 《交差点需要率》交差点の混雑度合を示す指標
- 《動的解析》シミュレーション動画を作成し、自動車交通の流れを確認

《平岸通横断手法の検討》

- 地下接続・空中接続は困難

地下通路

上下移動が多く利便性が低下

相当深度の掘削が必要であり費用対効果が見込めない

3階空中歩廊

上下移動が多く利便性が低下

既存駅舎の構造では新たな構造体を支持できず建替えが必要

2階空中歩廊

2番線から引込線が利用不可

⇒通常の運行が困難となり、旅客営業に著しい影響が発生

地下鉄軌道イメージ

1番線:ピストン輸送+引き込み線利用

2番線:ピストン輸送のみ(引き込み線利用不可)

B2・C街区

<真駒内独自の魅力を活用・向上させる機能の導入>

【想定される多様な機能】

- ・A街区を補完する機能(商業、医療・福祉、住宅など)
- ・教育機能や創造活動に資する機能
- ・スポーツなど健康づくりに資する機能
- ・B1街区以外の公的機能 など

※ただし、B2・C街区の事業化までには長期間を要するため、事業化の段階で土地需要や地域ニーズ、公有施設の更新動向等を踏まえ、改めて導入する機能を検証

B1街区

<行政機能・公共サービス機能の集積・複合化>

【集積・複合化する機能】

- ・南区役所等の行政機能
- ・南区民センター等のコミュニティ機能
- ・その他子育て支援、情報発信、交流等を促す機能 など

A街区

<南区民の豊かな生活を支える都市機能の集積>

【駅直近に配置する機能】

- ・交流広場・交通広場

【A1街区に導入を図る機能】

- ・にぎわいの核となる商業(買物、飲食、サービス)系の機能
- ・交流広場と連携し地域コミュニティの形成に資する機能 など

【A2街区に想定される多様な機能】

- ・A1街区を補完する商業(買物、飲食、サービス)系の機能
- ・医療・福祉系の機能
- ・業務機能
- ・マンションなどの住居系機能 など

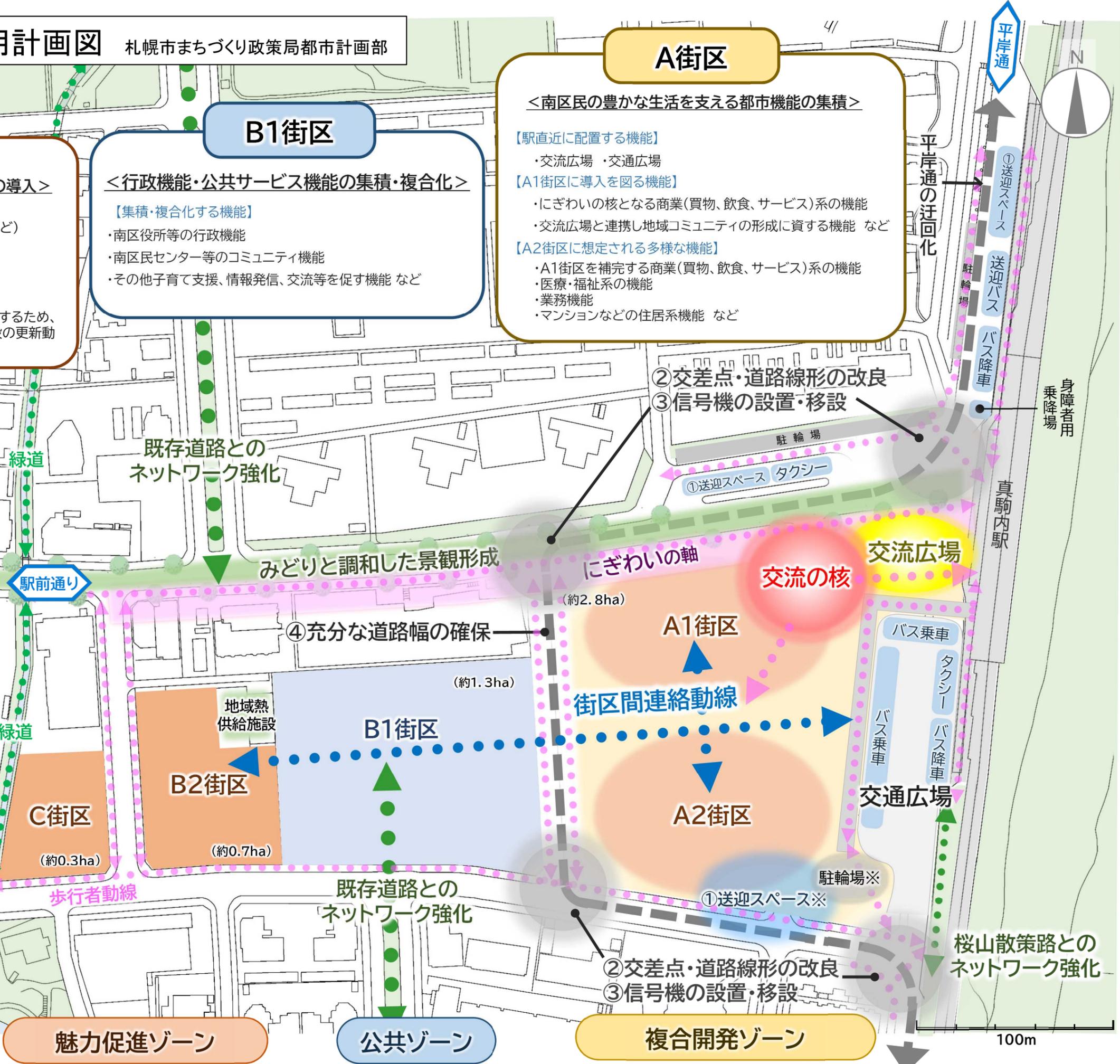
自動車交通の円滑性・安全性の確保に向けた取組の実施検討

- ①「送迎スペース」
➡一般車用の送迎スペースをA街区の北側と南側のそれぞれに設置(A街区の民間施設駐車場との連携も視野)
- ②「交差点・道路線形の改良」
➡隅切りの整備等による見通しの確保、右左折レーンの設置、スムーズに走行できる道路形状
- ③「信号機の設置・移設」
➡信号制御による安全性の確保
- ④「十分な道路幅」
➡冬季の堆雪、見通しも考慮したゆとりある道路幅確保

魅力促進ゾーン

公共ゾーン

複合開発ゾーン



※A街区側の送迎スペースや駐輪場は、民間施設の配置計画とあわせて検討

＜参考資料＞ パース 札幌市まちづくり政策局都市計画部

※真駒内駅側と五輪団地側をむすぶ、歩行者横断歩道の設置を予定しております。

北側から南側への俯瞰



※このパースはあくまでも現時点におけるイメージであり、実際の整備内容を表したものではありません。

駅出口からの視点



※このパースはあくまでも現時点におけるイメージであり、実際の整備内容を表したものではありません。